

佑啓

心意気

ゆうけい

発行者

社会福祉法人 佑啓会

理事長 里見 吉英

〒290-0265

千葉県市原市今富 1110-1

TEL 0436-36-7611

FAX 0436-36-7612

編集者 広報委員会

堀金 兼太郎

この業界で働いていると、他の人よりもバラエティーに富んだ体験をする機会が多いのではないかなと思うことがある。例えば、作業活動。「福祉」のいろはも解らぬうちから、気が付けばエンジン式刈払い機やらチェーンソーを使つて山を刈り、畑に行けばトラクターを駆る。農業でもないのに本気で野菜や花を育てる。気が付けばダンブカーやフォークリフトも操ればバスの運転もお手のもの。はたまた利用者さんと楽しむ各種イベント。私は特段、アウトドア志向はないがバーベキューの火おこしなどに対する苦労は感じない。流しそうめんなんて、夏の風物詩のように言われているが、実際に体験したことがある人はどれほどいるのだろうか。ましてや自分で竹を切つてそうめんを流す側となるとそんなないのではないのか。私も職場に入つて初めて経験したクチである。今では、若い職員が夏のイベントに悩んでいると「流しそうめんやろうよ」と口走つてしまう。だが、一步職場を出れば、流しそうめんもバーベキューも休みの予定には入らないし、休みの日にキャンプ場へ出かける

タイプの間ではないのだ。なので、もちろん我が家族も同じような家庭で育つた。核家族で引越歴多数、特段両親の実家が「地方のどこか」でもない。代々受け継がれたものもなければ、地元の繋がりとこの希薄な環境だった。加えて、個人的にも引つ込み思案で人見知りなもので、与えられたらやるけど自分からは進んでやらないのである。

そんな私が、最近楽しみにしている風物詩がある。「神輿を担ぐ」これも一見、福祉とは無縁に思われるでしょう。そして、実際担いだことありますよって人は意外と少ないのではないかと思っている。今では私だけではなく佑啓会にとつて大きな楽しみの一つになっている。

ことの始まりは、佑啓会が文京区に開所した「ふる里学舎本郷」にある。その地には縁もゆかりもない私たちは準備から開設に至るまで「ちよつと浮いた」存在だったかと思う。佑啓会？障害者施設？パンを作る？と、ハテナ尽くし。何か、地域の方々と距離が近付くものはないかと思案していた

ところ、町会の方から毎年行われるふる里学舎本郷のお隣、「三河稲荷神社」の例大祭で神輿を担がないかとお誘いをいただいた。これは好機！と思い「何でもやります！是非参加させてください！」と威勢よく言ったものの、思い返してみれば、神輿なんて担いだことではないのだ。まあそれでも何とかなるさ、ウチの法人全体に声をかければ経験者もいるだろうし、そこそこお手伝いにも来てくれるだろう、と早速募つたところ、遠くは南房総から老若男女合わせて三十人近くが参加してくれることになった。だが、どう見ても「神輿のことならお任せあれ！」という達者はおらず、良くても小さい頃に子供会でちよつと担いだことがあるとかで、殆どは未経験者であつた。それでも私にとつてはとも心強く、ふる里学舎本郷オーブンの景気づけにと駆けつけてくれる心意気が何よりも嬉しかった。

よし、頑張るぞと気合を入れて、まずは形からだよね、ということ専門店に行つて、股引(ボトムス)と鯉口(アンダーシャツ)と地下足袋を買つた。股引なんて履いたことがないから、ユーチューブを見て本番まで何度も着方を練習した。なんかわからないけど、見てくれを整えただけで、何となく自信が湧いてきた。

例大祭当日、東京に配属の職員は担ぎ手に先駆けて、もう一つの大切な役目がある。それは例大祭の準備にも携わらせていただくこと。神酒所の設営や神輿や山車を蔵から運んだり、といつても全くの素人である私たちは、地元の重鎮の方々の号令に従つて右へ左へ動き回るのだ。神輿を担ぐだけで

は、いよいよ、これも貴重な体験である。いよいよ、我が佑啓会の担ぎ手の到着。そこでまたまた嬉しいことが一つ。殆どの職員がその日に向けて、私と同じように祭りの装いを準備していたこと。どうせやるなら本気でと、皆が卸したての鯉口に股引、地下足袋で参上。普段、なかなか会えない仕事仲間でも、同じ思い、同じ熱量でいてくれることに胸が熱くなる。



三河稲荷神社例大祭での1枚

それから八年。コロナ禍には途絶えた例大祭も昨年からは復活し、今ではふる里学舎本郷だけではなくふる里学舎蔵波でも同様の活動が定着している。年に一度しか会わない人たちでも顔をあわせれば、「久しぶり」「今年もよろしく」と声をかけてくれると嬉しくなる。さしたる地元も田舎も持たない私は、心のどこかで土着的なものに憧れの念があるのかもしれない。

来年度から、入所施設やグループホームには「地域連携推進会議」が義務化される。簡単に言うが、居住系サービスは閉鎖的になりがちで、定期的な外部の目を入れる必要がある。それにより運営の質が確保されることが目的だそう。そのためには年に一度の見学会や運営状況を報告する会議を設けることになる。通所も居住も結局は運営する母体の気質だと思つた。昨今の報道では全国的な展開をみせるグループホームによる、不適切な支援や運営が発覚する事例も散見される。結局は組織としての「経営」理念がそうさせているのではないのか。佑啓会は色々な地域で様々な事業を運営しているが、地域の方々と交流はマストだと考えている。しかつめらしい会議など開催しなくても、日頃から施設にパンを買いに来てくださり、イベントを開催すれば多くの方がお越しいただいて、施設の中を見ていただいている。何よりそこで暮らす利用者の表情や、職員の様子を見ただけならば、ご理解いただけるのではないかなと思う。

で、いざ神輿を担ぎ始めたら、同じ思い、同じ熱量をもってして、もリズムはバラバラ、歴戦の担ぎ手の方々にしたら迷惑極まりない集団と化してしまつた。それでも半日程文京区のビル群の中を練り歩き、途中の休憩所ではお酒をいれながら、他の担ぎ手の方々、地域の方々とお話をする機会もいたただけ、無事に終了。その後は直会(なおらい)と読む。こんな言葉も知らなかった。では、地域の飲食店さんのご協力で美味しい料理やお酒をいただき、皆さんと楽しいひと時を過ごさせていただいた。神輿を担ぐことに気が向いてしまつていたが、気が付けば所期の目的である「地域の方々と交流」は無事にどこるか盛大に遂げている。同じ思い、同じ熱量を地域の方々と共に共有できたことで街の仲間入りができたのではと、ひとり勝手に感動していた。

これには入所している子供も大人も、職員も大喜び。地域のためとか、利用者のためとか、お題目として掲げるのも良いけれど、自分たちも楽しむというところがまず大事なんじゃないかなと思う。



蔵波八幡神社例大祭
ふる里学舎蔵波での1枚

神輿初心者だった我々も、今では自前の帯やら小物入れなどを身に着ける者や底にエアの入つた足袋で気合十分な者が増えていく。笑顔で元気に神輿を担ぐ若手職員、ちよつとだけ担いで休憩所では一番元気に酒を飲む年配職員がいて、翌日には筋肉痛と肩の痛みが襲ってくる。タイプやコスパの世の中で、人手も時間も体力も使つて、あんな重たいモノを一日中担ぐ。効率重視の昨今、非効率はある種の贅沢でもあり、そんな休日があつていいと思う。じゃあ何が楽しいのって聞かれると・・・達成感？爽快感？一体感？まあひつくるめてあの場に漂う空気がいいのだ。

そういつたことを楽しいと思える人が、こういう業界に向いているのかも。そして佑啓会はいつてもそんな空気が溢れている。

(ふる里学舎浦安 施設長)

家族会一泊研修に参加して

大原 健

令和四年三月からふる里学舎一寮でお世話になっていて、大原拓也の父の大原健と申します。
先日、令和六年十一月二十六日から二十七日までの二日間、ふる里学舎家族会一泊研修会に参加して参りました。

昨年家族会に入会し、今年の二月に開催された一泊研修会に続いて二回目の参加となります。

家族会の中では、恐らく一番若いのかな？と思います。還暦を過ぎて「若い」と周りの方々から言われるのは、嬉しいやら、不思議やら、ちよつと複雑な心境ですね。研修会中は、皆様方のお名前やお顔が分からず、大変失礼なことをしたのではないかと反省しております。



家族会一泊研修の様子

この一泊研修会、やはりメインは里見理事長の講話ではないでしょうか。特に今回お話していただいた、蔵波での強度行動障害のある利用者への対応、特に体を張って対応していただいている職員の皆様の様子を伺いとても感動しました。まさに障害者支援のプロ集団ですね。また昨今の社会問題でもある人材不足に対しても、YouTubeなどのSNSを活用し、若手職員を中心とした

人材確保活動により、適性のある優秀な職員を確保していただいているというお話を伺いました。これを伺いこれからも本当に安心して息子の支援をお願いできる法人だなと改めて思った次第です。



鴨川一泊旅行に参加された拓也さん

さて、この研修会のもう一つのイベントは、我々家族と職員の皆様と懇親の場を設けていただいていることですね。一次会のみならずカラオケ付きの二次会まであります。二次会では、自己紹介を兼ねて一曲歌っちゃいました。いつもの定期的な面談や、個別支援計画のモニタリングなどでは、どうしても入所支援における寮内で生活支援を担当されている職員の方からのお話がメインとなります。中支援助担当の活動状況については詳しく知ることができません。でも、この懇親会では、息子の日中支援を直接担当していただいている皆川係長から、息子の様子や具体的によの作業をやっているのかを聞くことができ、とても嬉しく思いました。皆川係長によれば市原では月曜日と木曜日の昼食時にパンが出るようですが、息子はパンが好きすぎて、月、木曜日の十一時半頃になると落ち着きなくなるそうです。そして出されたパンを一緒に食べるのだとか。まあ美味しいパンですからね。以前から食べるのが

早く喉に詰まらせないかちよつと心配だったので、やはりふる里学舎でも同じかと。困ったもので、一泊旅行でも一、二を争う早食いだつたとか。私に似たのでしようかね。ちよつと責任を感じました。

そして二次会では、静風荘の飯田部長とお話させていただきました。私も私と同じ卯年ということで、とても親近感がありました。そして飯田部長と息子の将来のことについてお話をさせていただいたところ、これまで面識のない私に「いつでも静風荘へ来てください。色々説明しますよ」と言っていただけだったのは本当に良かったなと思います。私は四十一

年間の海上保安庁での勤務の後、昨年八月から、習志野市で行政書士事務所を開業しております。障害福祉サービス事業者のサポートの他、相続、遺言書作成、コスモス成年後見サポートセンターに入会し、後見業務などを主な取扱い業務としております。ですから親亡き後の対策として、遺言書や、生命保険信託、あるいは死後事務委任契約などといった制度についてはある程度知っています。各種制度を上手く活用し、ふる里学舎の皆様と共に、親としてのどのような準備を進めるべきなのかについて色々考えていきたいですね。
最後に、この一泊研修会に参加する機会をいただいたのは、息子が短期入所を利用するきっかけをくださった。担当の楠元係長からでした。妻と二人で話を伺い、入所が決まったら妻と二人で参加したいなと考えていたのですが、昨年四月、妻は突然の病に倒れ旅立ってしまった。その為それが実現できず本当に残念に思っております。丁度研修会二日目は、妻の十九回目の月命日だったので、朝ホテルで購入したふる里学舎のパンを帰宅後お供えし、今回の研修会での出来事を報告しました。亡き妻も職員の皆さまからのお話を伺い、きつと喜んでる事と思えます。ありがとうございました。
(ふる里学舎一寮 保護者)

フットサル部始動

圓山 祐生

夏の始めの宴席で、不意に里見理事長から「圓山、フットサル部作るか？」と話をいただく。(聞きなじみのない方に説明すると小さいコートで行う少人数制サッカーです。)小学校からサッカーをやっていた私にとつては、嬉しさとともに頭の片隅にありながらも優先順位としては最底辺であったフットサル部発足の思いが再加熱した。というのも十数年前の若手時代、いろいろな部活(当時はバレー・野球)があるのだから、フットサル部を作っても良いのではないかと石森主任・川口支援員と密かに画策していたのだが発足には至らなかった。それもそのはずで休日に運動好きの職員を集めて、姉崎公園でボールを蹴り、同じ練習場を使用している見ず知らずの方々に声をかけて、その場で練習試合などを出てみようと軽い気持ちでやっていただけであつた。振り返ってみると自分たちがそれなりに楽しめれば良いと実際には部を作る為の活動は、特に行っていなかったのだから、その間、バドミントンやバスケットにバンドといった部活が先を越して発足していった。

話をいただいた場には偶然にも前述した二名も参加していた。すぐに二人に理事長からの言葉を伝えた。ベテランの域に達している三人は体にキレはなくなつたが、発足するまでの過程を考えると対する頭のキレはついていないと思いたい。と、りあえずサッカー経験者は誰か、どのように勧誘をしていくか、ポスターを作るのはどうか、必要な物品は何かなど様々な話が出てきた。一時は諦めていた三人も満を持しての発足に法人の後押しがあると思うと行動は早い。すぐにポスターが出来上がり勧誘活動を開始。松橋次長(監督)を始め、「新人からベテラン」まで幅広い層の

二十一名の部員が集まり始動。(余談ではあるが二十一名も部員がいてフォワード【攻撃の人】の経験者は一人。その他のほとんどは私を含めてディフェンダー【守備の人】である。これは佑啓会に限ったことなのか、福祉職特有のものなのか少し気になる。)部活をしていなければ年に数回顔を合わせれば良いぐらいの職員もボールを蹴りながら交友を深める。普段は冷静沈着でクールだと思っていた職員も、フットサルになると闘志剥き出しで身体をぶつけ、熱い気持ちが見られるなど、日頃の姿からは想像もできない瞬間を目にできることは部活動の良さだと感じている。



フットサル部発足メンバー

数ヶ月して、小さな大会に出場させていただいた。初めての大会を目前に里見理事長からは、「やるからには本気で頑張りなさい。」と重くもありがたい言葉をいただいた。プレッシャーに拍車がかかるなか、初参加で初優勝という成績を残すことができた。
今年度から千葉県知的障害者福祉協会の新たな福利厚生行事として職員交流フットサル大会が計画されている。「仕事も本気×遊びも本気」を体現しながら、楽しくもきついな練習に励み初代チャンピオンを目標に掲げている。フットサルをさせていただけると感謝をしながら活動

していきたいと思えますので応援よろしくお願ひします。

(ふる里学舎浦安 支援員)

佑Tube



障害福祉で働く職員のリアルを発信！
2週間に1度動画を公開中。
是非、ご覧ください。

【年賀状について】

この度当法人では、年始のご挨拶にお届けしておりました年賀状を控えさせていただきますこととなりました。誠に勝手ながらご理解賜りますとともに、今後とも変わらぬご厚誼のほどお願い申し上げます。

編集後記

今年十月を過ぎて全国各地で厳しい暑さが続き、なんと一年間で一四〇日間、夏日を観測したそうです。涼しくなることを見越して、秋口に各事業所で一泊旅行を企画しているわけですが、写真を見返せば、皆さま漏れなく真夏の服装でした。季節に合わせたイベントを考えるのも難しくなつたものです。十二月に入ると一気に冷え込み、冬の本格到来となりました。秋はいつきていたのか？本当に季節は夏と冬の二季だけになってしまったのでしょうか。めまぐるしい気温の変化についていくのは大変ですが利用者の皆さまは寒さに負けず日々笑顔で過ごされています。来年も良い年になる事を願ひ、佑啓一三〇号をお届けします。今年も一年お世話になりました。
(支援員 栗川 克明)